

学生のバラ色の明日のために

グローバルコンピテンシーの修得を目的とするe-Learningプログラム



夢はバラ色

中嶋幹男*, 岩井千春**, 福井希一***

西川美香子, 小笠原史恵, 片倉啓雄, 藤山和仁

For a Glorious Future of Our Students : Proposing an E-Learning
Courseware for Cultivating " Global Competency "
Key Words : e-Learning, ESP, " global competency "

阪大生のイメージ

新春にバラ色の夢を語れとの仰せである。大阪大学の学生、巷で阪大生と呼ばれる彼らのバラ色の未来について考えようと、とりあえず現在の彼らのイメージを、様々なキーワードで検索してみた。すると、強烈な言葉が目に入った。

「イモ掘りとは、阪大生との合コンのことである。」
そうか、阪大生は「イモ」ばかりなのか……。阪大生が「イモ」と称される現実に衝撃を受けつつ、気を取り直して、再度検索を続ける。「暗い、ネクラ、地味、ダサい、引越し要員……」、阪大生をイメージする言葉はなんとネガティブな言葉が多いことか。これではバラ色の夢を語るどころではない。

なぜ、こんなイメージが定着しているのだろうか？心当たりがあるとするならば、阪大生は若干であるが口下手であることだ。他大学の学生と比べて「暗い」とか「ネクラ」とまで言われるほど差があるとは思えないが、誇張した笑い話などで、実際よりも悪いイメージが浸透している可能性は、ある。その若干の差を詰めれば良いかという、一旦定着したイメージは簡単には払拭できない。それならば、阪大生を口下手から話し上手に、しかも「英語で」楽しい会話ができる様にすれば、阪大生のイメージを検索して「cool(イケてる)」、「attractive(魅力的な)」、「sophisticated(洗練された、あか抜けた)」の単語が並ぶ日、すなわちバラ色の明日が来るはずである。

ここで、英語でcoolな会話をするのとタイトルの「グローバルコンピテンシー」との関係を考えてみる。英語でcoolな会話をするためには、話題を提供できる教養、会話をリードする技術、自分の意見を述べる能力が要求される。一方、グローバルコンピテンシーは、「多国籍・多文化の環境で自分の力を十二分に発揮できる能力」である。この能力を身につける為には、自身の専門で十分な実力を持つことは勿論であるが、ディスカッションやプレゼンテーションの能力を含めたコミュニケーションをデザ



* Mikio NAKAJIMA
1963年1月生
1990年大阪大学大学院工学研究科発酵工学専攻
大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻、特任助教授、工学博士、発酵工学、現在、株式会社0Machi代表取締役
TEL 090-3651-3837
FAX 06-6452-1616
E-mail : nakajima@0machi.com



** Chiharu IWA I
2006年3月大阪大学大学院・言語文化研究科・博士後期課程修了
現在、大阪経済大学(専任講師)、大阪大学現代GP特任研究員(非常勤)、博士(言語文化学)ESP(専門分野別英語教育)
TEL 06-6328-2431
FAX 06-6327-1825
E-mail : chiharu@osaka-ue.ac.jp



*** kiichi FUKUI
1951年1月生
1978年京都大学農学研究科博士課程
現在、大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻、教授、農学博士(京都大学)、染色体工学・ゲノム工学・可視化技術
TEL 06-6879-7440
FAX 06-6879-7441
E-mail : kfukui@bio.eng.osaka-u.ac.jp

インする技術が必要と考えている。そういったグローバルコンピテンシーを身に付けるための教育を行うことで、同時にcoolでattractiveな阪大生が生まれるはずである。

教育デザイン

現在大阪大学では、グローバルコンピテンシーを修得するためのe-Learning教育を展開中である。このe-Learningプログラムは、平成17年度に大阪大学で採択された文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」によって実施されており、コンピュータ上で学習できる専門分野に直結したESP(English for Specific Purposes = 専門分野別の英語)教材を開発し、それをを用いた英語教育を実施することを目的としている。本教育の理念であるグローバルコンピテンシーを修得させるために、以下のようにカリキュラムとコンテンツの設計を行った。

現状のカリキュラムでは、一般英語の読み書きやリスニングをトレーニングする科目は1, 2年次の学生に対して開講されており、さらに工学部では専門英語が修士課程に対して行われている。しかし、研究室に配属される4年次までには、専門英語を使いこなせることが望ましい。そこで、本プロジェクトのe-Learningコースを学部2年次の英語科目と置き換える形で単位化し、さらに、3年次に自習型授業としての導入を目指した。

コンテンツは、1) 専門知識に関しては2年次に理解できるレベルに合わせることで、2) 英語によるプレゼンテーションやディスカッションの基礎が学べることで、3) 各自のレベルに合わせた学習ができることで、4) 理系だけでなく文系の学生でも理解ができ、将来文系の英語授業にも応用可能な教材であること、4) 実際の英語使用に即した生きた英語であることを目標に開発した。平成17年度に完成したバイオテクノロジー分野のシラバスを、表1に示す。前期に用いる「バイオテクノロジー-英会話」は、身近なバイオテクノロジーに関する話題を取り上げた5コマ分の英会話と、プレゼンテーションの基礎と重要な言い回しを学習させる7コマ分のコンテンツからなっている。また、後期の授業で用いる「バイオテクノロジー-BASIC」は、狂牛病(BSE)などの最近話題になっているバイオテクノロジー関

連のトピックのリーディングと、大阪大学の海外拠点との遠隔授業で行う英語ディスカッションを含んでいる。リーディングでは、英語の文章に特徴的な構造を意識しながら、様々な種類のエッセイに触れると同時に、専門分野で実際に使用されている文書も学習できるようにコンテンツをデザインしている。

授 業

平成18年度の4月より、前年度に開発が終了したバイオテクノロジー分野のコンテンツを利用した授業を行っている。学生は能力別のクラス編成ではない為、各学生の能力差を意識した授業運営が必要である。従って、第1回目の授業でのオリエンテーションでは、初級、中級、上級の各レベルに向けて設定した学習方法を提示し、これにより、上級者に合わせた授業に初心者がついて来なかったり、初心者向けの授業内容で上級者が退屈するなどの問題が生じることなく、各自のレベルに合わせた学習が可能となった。また、授業時間だけ学習させるのではなく、予習・復習を促す工夫を行った。授業の前週に学習内容の予告としてPre-Testを実施することで、学生に興味を持たせ、予習をすることを促し、授業の次週にPost-Testを行うことで復習を促している。ログを解析した結果、自習を行っていない学生は、僅かに1人であり、残る44人の平均の自習時間は、約1.3時間/週であった。大学における英語の授業では学生が予習や復習をしないことが問題となっているが、本授業の場合、ほとんどの学生がe-Learningの教材で自習を行っていることから、学生の動機づけの面から非常に高い効果が得られたと考えている。また、リスニングに加えて、話す訓練の為に、授業でロールプレイを取り入れている。登場人物の一人を学生が受け持ち、残りの登場人物の発音をPCが行う自習形式と、学生同士がペアを作って、各自が登場人物の役割を受け持って会話をする方法の両方を行っている。

真の国際人育成を目指して

このように、本プロジェクトのe-Learningプログラムでは、オーラルコミュニケーションに重点が置かれ、学生の専門分野に関連する英語を積極的に話したり、聞いたりすることができる能力の育成を

目指している。この授業では、概ね良好な学習効果が検証されており、このプログラムで学生のオーラルコミュニケーション能力を伸長させることができると考えている。しかしながら、英語が使えるだけでは真の国際人とは言えない。国際的に評価されるには、言語的な能力はひとつの要素でしかなく、専門分野をはじめとする様々な分野での深い知識と幅広い教養、自国や他国の文化に関する理解、そして、相手を尊重する態度と心情を押し量れる想像力など、総合的なコミュニケーション能力が重要ではないだろうか。このプログラムが受け持つのは、国際教育全体の中の一部ということになるだろう。私たちプロジェクト事務局が願うのは、この教材が学生諸君のバラ色の明日を実現するための、小さいが重要な一歩となることである。

CBT/ Interactive	Unit
	Section
	Topic
	バイオテクノロジー英会話
CBT	インフルエンザと抗生物質
CBT	BSEの原因
CBT	身近で使われている酵素
CBT	果糖ぶどう糖液糖
CBT	微生物の増殖と食中毒
	プレゼンテーションデザイン
	プレゼンテーションデザイン
CBT	プレゼンテーションの必要性
CBT	読みやすいスライド
CBT	タイムオーバー
CBT	抑揚の無いプレゼンテーション
	プレゼンテーション基本表現
CBT	基本的な図の読み方
CBT	曲線の読み方
CBT	数式の読み方

